

DESK WITH SLIDE BOARD

Patent number: JP9191951
Publication date: 1997-07-29
Inventor: NAGAMITSU SATOSHI; YAGUCHI HIDEKI
Applicant: OKAMURA CORP
Classification:
- **International:** A47B37/00; A47B17/00; B43L1/04
- **European:**
Application number: JP19960006330 19960118
Priority number(s):

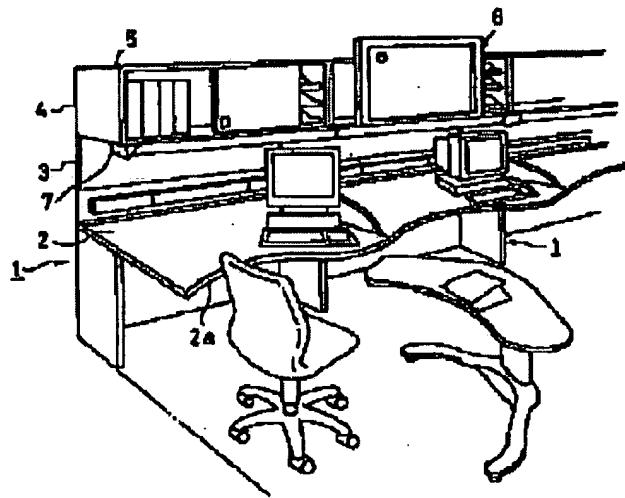
Also published as:

JP9191951 (A)

Abstract of JP9191951

PROBLEM TO BE SOLVED: To improve the working efficiency by mounting a cabinet on the upper front surface of a support member raised from the rear end of a desk body, and erecting a writing board partially covering the front surface of the cabinet on a rail laid in the lateral longitudinal direction of the cabinet in such a manner as to be movable.

SOLUTION: A desk body 1 has a top plate 2 having the front edge waved so as to form a recessed part 2a, and a hanging cabinet 4 having the whole surface opened is mounted on the upper part of a support member 3 such as a strut or panel raised from the rear end of the top plate 2. A lateral rail 5 is laid on the front part of the top part of the cabinet 4, a board 6 which is a writing board such as a blackboard or white board is suspended from the rail 5 in such a manner as to be slidable, and a powder receiver and rail 7 is arranged on the lower part of the board 6 in such a manner as to be laterally connectable similarly to the upper rail 5. Thus, the working efficiency can be improved.



Data supplied from the esp@cenet database - Worldwide

(19)日本国特許庁 (JP)

(12) 公開特許公報 (A)

(11)特許出願公開番号

特開平9-191951

(43)公開日 平成9年(1997)7月29日

(51)Int.Cl. [®]	識別記号	府内整理番号	F I	技術表示箇所
A 47 B 37/00 17/00	505		A 47 B 37/00 17/00	505Z Z
B 43 L 1/04			B 43 L 1/04	G

審査請求 未請求 請求項の数3 OL (全4頁)

(21)出願番号 特願平8-6330

(22)出願日 平成8年(1996)1月18日

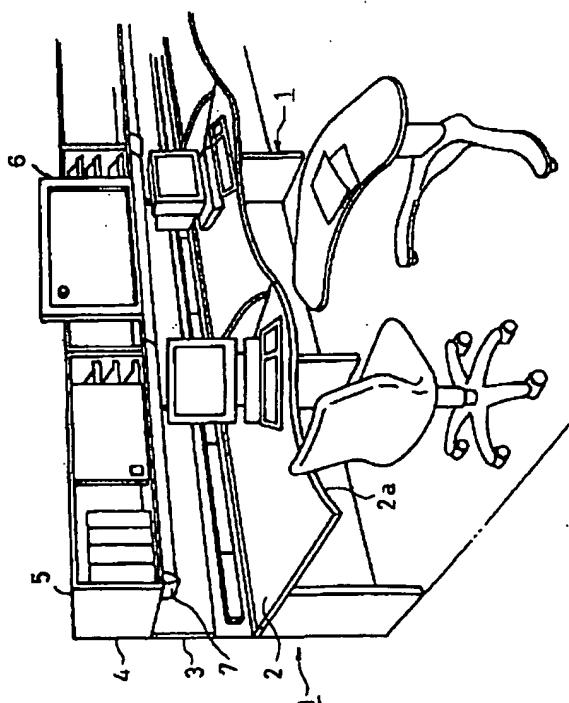
(71)出願人 000000561
株式会社岡村製作所
神奈川県横浜市西区北幸2丁目7番18号
(72)発明者 長光 輝司
横浜市西区北幸2丁目7番18号 株式会社
岡村製作所
(72)発明者 矢口 秀美
横浜市西区北幸2丁目7番18号 株式会社
岡村製作所
(74)代理人 弁理士 竹沢 莊一 (外1名)

(54)【発明の名称】 スライドボード付き机

(57)【要約】

【課題】 机に向かう執務者の手のとどく所に、スライド式に移動できる筆記板を設け、執務能率の向上を図る。

【解決手段】 机本体1の後端より立設した支持部材3の上部前面にキャビネット4を取付け、このキャビネット4の左右長手方向に設けたレール5に、キャビネット4の前面を部分的に覆う筆記板6を移動自在に架設する。



【特許請求の範囲】

【請求項1】 机本体の後端より立設した支持部材の上部前面にキャビネットを取付け、このキャビネットの左右長手方向に設けたレールに、前記キャビネットの前面を部分的に覆う筆記板を、移動自在に架設したことを特徴とするスライドボード付き机。

【請求項2】 机本体の天板前縁に凹窪部を形成したことを特徴とする請求項1記載のスライドボード付き机。

【請求項3】 机本体が左右に並んで連設され、かつこれらの机本体のキャビネットにわたってレールが連続して延びており、このレールのいくつかの位置に、筆記板を一時停止させる手段を設けたことを特徴とする請求項1または2記載のスライドボード付き机。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】 本発明は、机上に架設したキャビネットの前面の一部を閉塞する筆記板を、左右移動自在に設けて、執務の効率化を図ることができるようとしたスライドボード付き机に関する。

【0002】

【従来の技術】 従来、間仕切パネルの前面に、筆記板や掲示板などのボードを懸架したり、移動式のボードを立て掛けたりし、また、実公昭62-41644号公報に記載のように、収納家具本体の前面に、引き違い扉の代わりに、筆記板等のボードを左右移動自在に懸架して、連絡事項や作業日程、会議中の発言などを書き込むことが行われている。

【0003】

【発明が解決しようとする課題】 上述の従来技術のように、オフィスを区画する間仕切パネルの前面に懸架したり、或いは立て掛けたりした移動式のボードでは、自席で執務中にパソコン等に向かいながら思い浮かんだアイデアやイメージを即座に書き留めるには、ボードが離れてきている。そのため、自席から離れると、執務作業が中断して効率を損なうことになる。

【0004】 机周りを囲む簡易式の間仕切パネルの執務者の側面、または背面にボードを懸架するか、或いは机に隣接させて移動式のボードを立て掛けるようにすると、これらによって、机周りのスペースが狭められることになるばかりか、執務者の側面または背面に余りに接近しすぎていると、執務者がボードに衝突して危険である。

【0005】 またボードが、机の背面側のように遠い位置にあると、執務者は、立ち上がって大きく腕を延ばさなければ、ボードに手が届かない。

【0006】 さらにこのボードは、執務者個人でしか使用できず、隣の机の執務者と同一ボードを共用して、アイデアやディスカッションのまとめなどを書き込んだり訂正したりすることはできない。

【0007】 収納家具本体の前面に引き違い扉の代わり

に、ボードを左右移動自在に懸架することもあるが、収納家具は、前記間仕切パネルと同様に、机の執務エリアより遠く離れて配置されることが通常であるため、自席から離れることによって、執務作業が中断されて、効率を損なうことになる。

【0008】 執務者の周囲に収納家具を配置しても、ボードに書き込むためには、後を振り向かねばならず、前側にボードを設けて書き留めた内容を確認しながら執務することはできない。また、収納家具の引き違い扉に替わるスライドボードは大形となり、かつその左右移動に際して、大きな摺動音を発するため、執務の妨げになる。

【0009】 本発明の目的は、机に向かう執務者の手のとどく所に、スライド式に移動できる筆記板を設け、もって執務能率の向上を図ることにある。

【0010】

【課題を解決するための手段】 本発明によると、上記課題は、次のようにして解決される。

(1) 机本体の後端に立設した支持部材の上部前面にキャビネットを取付け、このキャビネットの左右長手方向に設けたレールに、前記キャビネットの前面を部分的に覆う筆記板を移動自在に架設したこと。

【0011】 (2) 上記(1)項において、机本体の天板前縁に凹窪部を形成させる。

【0012】 (3) 上記(1)または(2)項において、机本体が左右に並んで連設されており、これらの机本体のキャビネットにわたってレールが連続して延びており、このレールのいくつかの位置に筆記板を一時停止させる手段が設けられる。

【0013】

【発明の実施の形態】 図1は、本発明の1実施例を示す斜視図で、2つの同形の机本体(1)が、左右方向に並んで連設されている。机本体(1)は、前縁が波形をなして凹窪部(2a)を形成している天板(2)を備え、天板(2)の後端より立設された支柱、パネル等の支持部材(3)の上部には、全面開放の掛け吊りキャビネット(4)が取り付けられている。

【0014】 キャビネット(4)の頂部の前部には、左右方向のレール(5)が敷設されており、このレール(5)は、隣の机本体(1)のレール(5)と連続している。

【0015】 レール(5)には、黒板、白板のような筆記板、すなわちボード(6)が滑動自在に懸架されている。ボード(6)の下部には、粉受け兼用レール(7)が、上部のレール(5)と同様に、左右に連続可能に配設されている。

【0016】 図2に示すように、ボード(6)の裏面の上部の両端部付近には、取付金具(8)により、ローラ(9)が、レール(5)上を走行できるように取り付けられている。従って、ボード(6)は、このローラ(9)を介してキャビネット(4)上に懸架されている。

【0017】ボード(6)の下端には、取付金具(10)によりローラ(11)が実質的に45度の角度で取り付けられている。このローラ(11)は、キャビネット(4)の角を落とした下隅部に取り付けた粉受け兼用レール(7)のローラ受け部分に収容され、筆記板(6)を案内している。粉受け兼用レール(7)の前部は、筆記板(6)の下部にわたるように前方に突出して、白墨の粉受けとなっている。

【0018】このような構成であるので、筆記板(6)は、レール(5)上を左右方向に自由に隣の机(1)まで滑動することができ、隣の執務者と共に使用することができる。

【0019】この筆記板(6)の滑動を一時停止させる手段がレール(5)に設けられている。すなわち、図3に示すようなボールキャッチ(12)が、そのボール(12a)がばね(12b)に付勢されてレール面から突出するように、レール(5)に埋め込まれている。ローラ(9)がボール(12a)に接触すると、筆記板(6)は一時停止する。筆記板(6)をさらに押すと、ローラ(9)は、ばね(12b)の力に抗してボール(12a)を押し下げて移動することができる。

【0020】図4に示す変形例では、一時停止手段は、レール(5)に形成した単なる窪み部分(13)である。筆記板(6)のローラ(9)が、この窪み部分(13)に落ち込んで一時停止する。筆記板(6)をさらに押せば、ローラ(9)は窪み部分(13)を越えて移動することができる。

【0021】

【発明の効果】机に向かった執務者の前方身近にスライドボードを設けたので、机に向かってパソコン等を操作しながら、身体を大きく移動したり、腕を伸ばしたりすることもなく、アイデアやイメージなどを書き留め、これを目視確認しながらパソコン操作等の執務を中断することなく継続でき、執務効率を高めることができる。

【0022】請求項2記載の発明のように、机本体の天板前縁に凹窪部を形成させると、キャビネット前面のボードを、より身近にすることでき、机前方に腰掛け、或いは凹窪部で立ち上がって、アイデアやイメージ、ディスカッションのまとめなどを書き留めることができ *

る。

【0023】請求項3記載の発明のように、机本体が左右に並んで連設され、これらの机本体のキャビネットにわたってレールが連続して延びており、このレールのいくつかの位置に筆記板を一時停止させる手段が設けられていると、隣の執務者など複数人でチーム討議を行いながら、ボードを左右身近に引き寄せて共用して使用することができる。この際、レールの適所にボードの一時停止手段を設けることにより、ボードを一時固定して書き込むことができるとともに、左右にスライドさせたボードが、不用意に隣の執務者に衝突することを防止できる。

【図面の簡単な説明】

【図1】本発明の実施例である机を、2個側方へ連設した状態を示す斜視図である。

【図2】図1に示した筆記板付近の拡大側面図である。

【図3】レールに取り付けた一時停止手段の拡大縦断面図である。

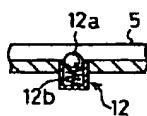
【図4】一時停止手段の変形例の拡大縦断面図である。

【符号の説明】

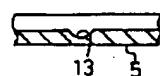
- (1)机本体
- (2)天板
- (2a)凹窪部
- (3)支持部材
- (4)キャビネット
- (5)レール
- (6)筆記板(ボード)
- (7)粉受け兼用レール
- (8)取付金具

- (9)ローラ
- (10)取付金具
- (11)ローラ
- (12)ボールキャッチ(一時停止手段)
- (12a)ボール
- (12b)ばね
- (13)窪み部分

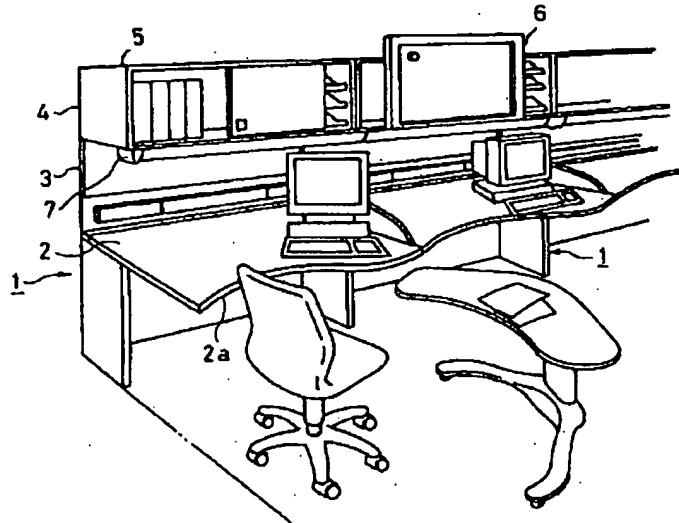
【図3】



【図4】



〔図1〕



〔図2〕

